

比婆山学のすすめ

「私たちの宝物『比婆山連峰・熊野神社』」



ナゲル へ野
ザガ 熊野
イト 御所
イコ 御殿
上ミ 山右
真ノ 遥拝
写ミ 社の
る 写真
「比婆山連峰」

今から約1300年前の和銅5(712)年に記された日本最古の歴史書『古事記』のなかに、「故れ、其の神避りましし伊邪那美神は、出雲国と伯伎(耆)国の塚なる比婆之山に葬りき」とあります。このわずかな字数の物語が「比婆山神話」です。国生みの女神イザナミノミコトが、火の神(製鉄の神)ヒノカグツチを産んで亡くなると出雲と伯耆の塚の比婆之山に葬られたと記しています。比婆山神話は、私たちに何を伝えようとしているのでしょうか。

比婆科学教育振興会、西城町郷土研究会などによってさまざまな調査が行われてきましたが、その成果が観光振興に十分生かされているとは必ずしも言えませんでした。

そこで、市と市教育委員会は、これまでの成果を一冊にまとめ、地域資源として活用するための書籍作りに取り組みこととしました。昨年11月、市内の専門家を中心に、「庄原市比婆山・熊野神社解説本編集委員会」(金沢成三委員長)が発足し、編集に着手しました。

本年10月の出版を目指し、総勢21人の執筆による執筆作業が進んでいきます。

「比婆いざなみ街道物語」の推進

市は、地域に存在する多様な資源(※)を情報発信し、観光振興やにぎわい創出、交流・定住の促進を目的として、「比婆いざなみ街道物語」(庄原市北部資源活用計画)を推進しています。

市教育委員会でも、平成27年度に着手した比婆山・熊野神社解説書作成を皮切りに、沿線文化財の保護管理支援や案内標識・説明看板の設置など4つの事業を推進し、資源の発掘と磨き上げを図ります。

※多様な資源とは、神話・伝説の地をはじめとする歴史遺産や遺跡群、地域で伝わる文化や芸能、中国山地ならではの豊かな自然や内陸気候に育まれた農畜産物などをいいます。



三浦佑之
立正大学教授

●出版イベント 「比婆いざなみ街道 文化財講演会」

10月に予定している書籍『比婆山学』(仮称)の出版に向けた出版イベントとして、執筆者の一人で、古事記研究の第一人者である三浦佑之立正大学教授を講師に迎え、講演会を開催します。

庄原市北部地域に眠る魅力的な文化財を学び、地域づくりに生かすための「比婆山学」の機運を醸成することを目的とした講座の第一弾となるものです。

とき 5月13日(金) 18時30分～20時
ところ 庄原市田園文化センター
テーマ 日本神話のルーツを歩く
講師 三浦佑之さん(立正大学教授)

問い合わせ

いちばんづくり課いちばんづくり係

☎0824-73-1278

生涯学習課文化財係

☎0824-73-1189

「比婆山学」のすすめ

比婆山連峰を歩くと、御陵(1264)にある苔むした巨石が横たわる円丘「比婆山伝説地」(県史跡)や、悠久の時を刻む「比婆山のブナ純林」(国天然記念物)など、魅力的な歴史や豊かな自然に出会い、心が癒やされます。

また、御陵への南参道にある遥拝所「熊野神社」では、境内の「熊野神社の老杉」(県天然記念物)が放つ、清々しくも威厳に満ちた空気に圧倒されます。

書籍『比婆山学』(仮称)の編集に着手

比婆山連峰や熊野神社については、戦後の国定公園候補地学術調査をはじめ、